リーディングDXスクール事業 【実践事例】

米子市立東山中学校（鳥取県）

【取組内容①】 学校間の壁を越えた協働的な学び

1．本実践のねらい

「自然の恵みと火山災害・地震災害」と「地域の自然災害」について、理科の学習内容を基盤として地域の防災意識を向上させるプロジェクト型の単元を構想した。また、他校と協働的に本実践を行うことで、より多くの人々の防災意識を向上させることができると考える。

2．実践内容

2-1.課題設定

阪神淡路大震災と県西部地震の被害状況の比較を通して、防災に関する取組の重要性を理解する。今後、県西部に起こりうる地震の原因（２種類の断層）について理解し、地域の防災・減災に向けたプロジェクトを選択する。

2-2.情報収集、整理・分析、まとめ

まず、震災誌や県震災対策アクションプランなどを情報源にして、現在と過去の事例やその成果と課題について、順序立てたり比較したりしてまとめる。

次に、自分たちのアイデアを実践して効果を分析したりスライドにまとめたりする。

そして、自分たちの実践内容についてプレゼンの練習を行う。

2-3.表現

市内の中学校とオンライン交流を行い、それぞれのプロジェクトの実践内容について意見交流した。

９月に行われた地域の防災イベントに参加して、自分たちのプロジェクトを実践したりプレゼンしたりして参加者（学校関係者、保護者、小学生、保育園児、地域の方々）の防災意識を高めようとした。

2-4.ふり返り・改善

実践を振り返って、自己の能力の変容（特に、情報活用能力）を実感した生徒が多くいた。理科の授業での学び（実践）を日常生活で生かそうとする生徒の姿が見られた。

3．成果

・他校とのオンライン交流を通して、互いのプロジェクトの良さに気付いた（視野や考え方が広がった）。また、プレゼンの工夫点（スライドの構成や表現力）を学び合うことができた。

・地域の防災イベントに参加して、自分たちのプロジェクトを実践したりプレゼンしたりして、地域の人々の防災意識を向上させることができた。

※公開授業（オンライン参加者もあり）にすることによって、校内外の教職員に生徒の可能性（情報活用能力、理科の学習を実社会に生かす力）を伝えることができた。

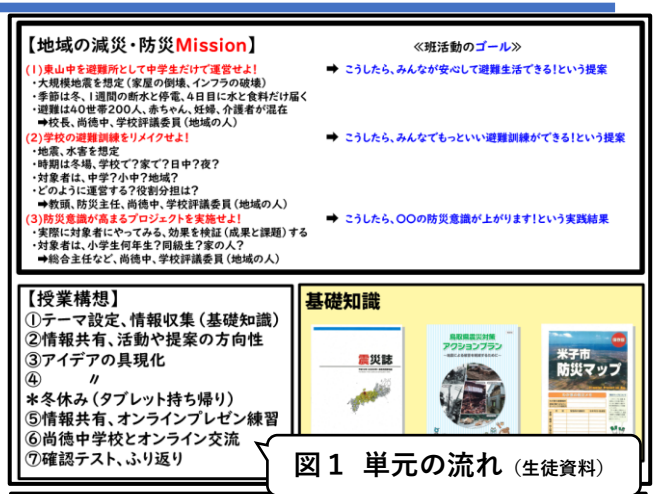

図１ 単元の流れ（生徒資料）

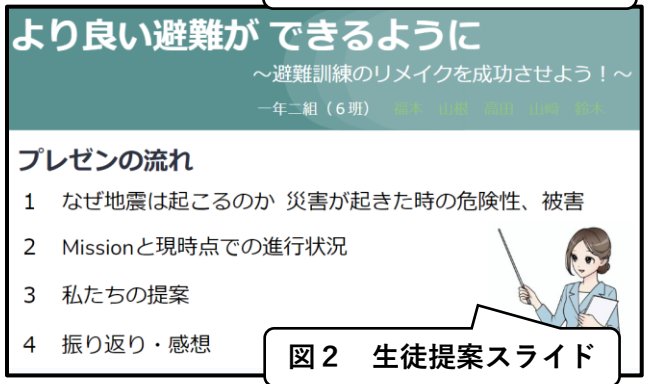

図２ 生徒提案スライド

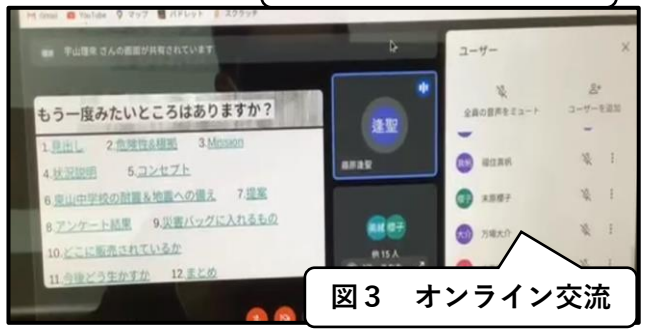

図３ オンライン交流